

A 古代の有田では塩作りが盛んだった! (※1)



これは、塩を作るために使われた土器の破片です。貨幣がなかったこの時代には、物々交換の品として塩を作っていたと考えられています。地ノ島は、山を背に陸側に向いており、海風から守られています。また、陸地からもさほど離れておらず、人の往来ができる距離のため、塩作りに適していたと思われます。

【塩の作り方】

土器に海水を入れて火にかけます。

何回か海水を足し、沸騰・蒸発を繰り返します。

最後は土器を割って塩を取り出します。

だから壊れた状態で見つかることが多いのですね!

↑破片をつなぎあわせて復元した土器

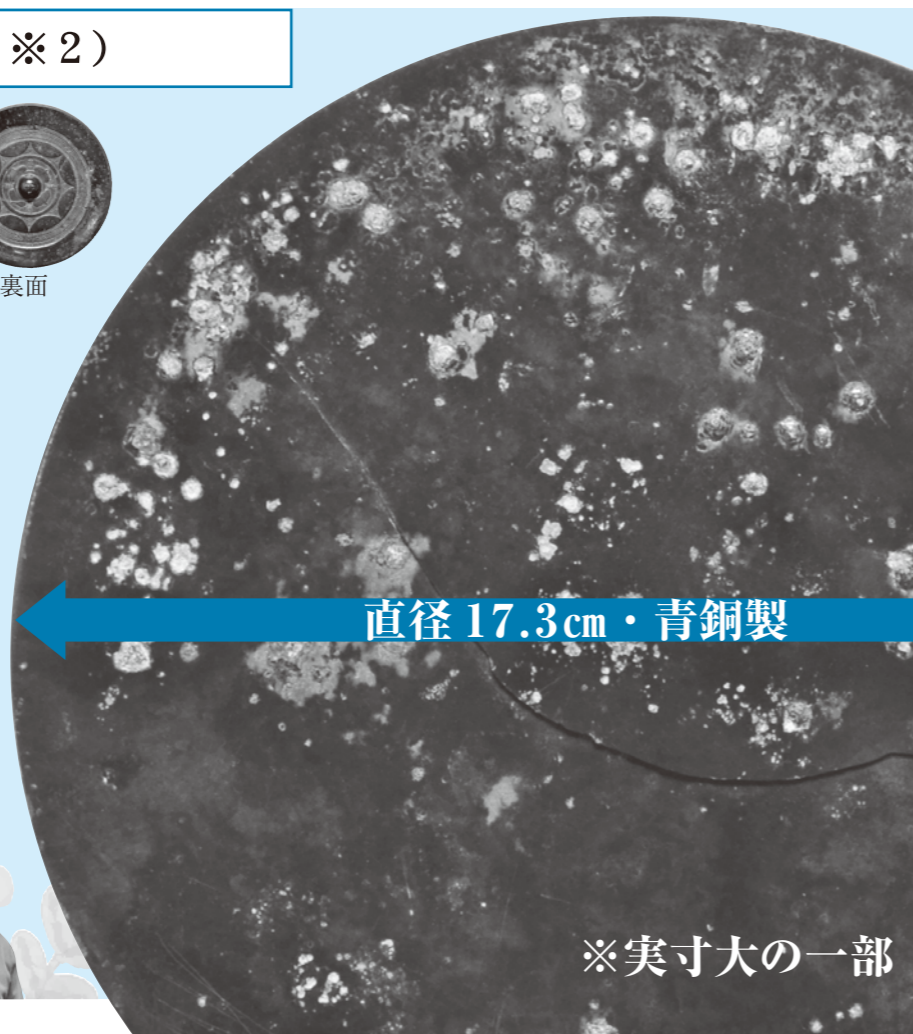
A 鏡の表面を公開! (※2)

鏡は、現在のように姿を見るものではなく、呪術的な魔力があると考えられ、豊作や国の繁栄などを占ったり、まじないの時に用いられたりしていました。

さまざまな文様や装飾があらわれている面は裏面（背面）です。私たちが博物館や教科書でよく見かけるのは裏面なんですね。鏡の表面は平らになっている面で、当時は人の姿が映る程度の光沢があったと言われています。



裏面



直径 17.3cm・青銅製

※実寸大の一部

郷土資料館
木谷 智史 学芸員

特別展「土地に刻まれた歴史 ー地中に埋まった有田のたからー」

期間 ~3月15日(日)

※水曜は休館です。

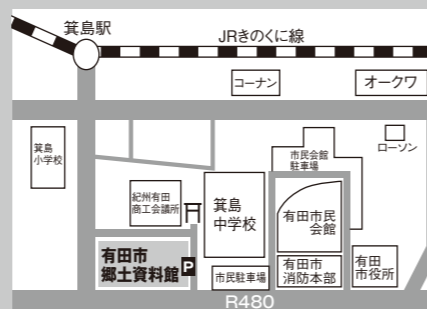
時間 9時30分~17時

場所 郷土資料館

(文化福祉センター4階)

TEL 82-3221

◆2月15日(土) 13:30~14:30
「ギャラリートーク」(於 郷土資料館)
富加見 泰彦氏(元和歌山県立紀伊風土記の丘学芸課長)が展示の紹介を行います。
※申込み不要、無料です。



郷土資料館開館30周年・登録博物館認定記念

~3月15日(日)まで

特別展「土地に刻まれた歴史

ー地中に埋まった有田のたからー」開催中

有田の地では、縄文時代から人々が生活していたと考えられています。土地に刻まれた古のくらしは、市民や研究者たちによって解明され、伝えられてきました。これまでに発見された出土品から当時の営みを一緒に掘り下げてみましょう。

20年ぶりに
県指定文化財が
そろいます!!

▼出土品にまつわるエピソードをご紹介します

①発見状況 ②特徴紹介

1 地ノ島遺跡を発見したのは観光客だった!

①昭和34年、地ノ島を訪れた観光客が人骨を捨てたことが、遺跡の発見につながりました。

②土器の破片がたくさん出土しています。一体何に使われていたのでしょうか? その理由は海と関係があります。答えは次のページ(※1)でご紹介します。



地ノ島出土遺物



食べていた貝の跡や漁具(おもり)が見つかっており、地ノ島での生活をうかがい知ることができます。

2 当時の鏡は貴重品?

①円満寺境内の山地から江戸時代に発見されたと言われてい

ます。②この鏡は、後漢(中国)でつくられ、畿内の豪族から各地へ分配されました。畿内周辺との交流が、この時代から既



ないこう かもんきょう
内行花文鏡

県指定文化財

鏡をどのように使ったのでしょうか? 答えは次のページ(※2)でご紹介します。

古墳時代

弥生時代

縄文時代

3 ※みかん畑を開墾中に銅鐸発見!



野井銅鐸
県指定文化財

①明治10年、みかん畑を開墾中に偶然発見されました。

②銅鐸は、農耕やまつりごとの際に、鐘のように鳴らして使用されていました。時代が進むにつれ、鳴り物としての「聞く銅鐸」から、大型化した「見る銅鐸」へ変化します。この銅鐸は、「聞く銅鐸」にあたり、つるして使っていたので厚手に作られています。

▼出土した場所

